

栄ちゃんの**熱血**演歌塾『あばれ舟唄』編



前作の男一途に続いて、今回の”あばれ舟唄”は典型的な男歌の作品です。いつもの様に歌う前に詩を良く読んでその作品の世界のイメージを描いて、歌い出しましょう。

この2つの曲のコンセプト（作品の意図及び命題）はほぼ同じと思います。しかし、両曲を比較してみると静と動、心と肉体、戦う相手は世の中と「男一途」は言うのに、「あばれ舟唄」は大自然だと言います。

この様にその表現する内容は真逆の情景と心情を歌います。只、その精神は両者ともアウトロー（無法者）で有ることに間違い有りません。男一途は背筋を伸ばし、すっくと立って世の中と対峙して

ゆっくりと歩いて行くイメージ。あばれは大自然の中で、不安定な足元を踏みしめながら、ファイティングポーズを取り、釣果を求めて見えない終着点に向かう男の能動的な姿。そんなイメージかなと思います。そして唱法で言いますと、男、、、は語り、あばれ、、、は歌います。

語りとは言葉の置き方、歌うとはスイングの事です。ベースに或るリズムパターンにも依りますが、この事は言葉で伝えるあらゆるジャンルの音楽の上で大きな要素になります。先人の名文句では「歌は語り、言葉は歌え」と有ります。しかし上記の説明は一つの歌の中でどちらかの選択と言う事ではありません。ウエートの問題で有り、又その匙加減は歌う人の声質、世代、性別、それにその人の立ち位置によって変わって来ます。立ち位置とは歌う物語との距離感の事です。

その歌の人物像やストーリーを身近に取り込んで熱く語るのか、一步離れて第三者の目でクールに歌うのか。どちらのスタイルでも歌は成立します。この様に歌の捉え方はそれぞれの歌の特質や、条件、その歌への思い入れや、物語の場面の展開に依っても一言一句変わって来るものなのです。その事を念頭に於いて、一行づつ具体的に歌に入ります。

～呼んでいる～ 呼んでいる～ 俺を呼んでいる～ メジャーの曲調ですから明るいつーンで大きく遠くにいる人に呼びかける様に！ 武士が戦いの前に自分の名前を大声で告げる様な威勢の良さと潔く“ヤアヤア我こそは”と名乗りを上げる感じです。歌う様に！ 歴史絵巻の主人公になった積りで！

歌い出しの～呼んで～ はアフタクト（その小節の4拍目からスタートします）で変則的な船出です。スタートから大自然との格闘であり、その内懐に切り込んで行く心意気を持って！ リズムに乗り遅れない様に！ イントロのリズムパターンを良く聞いて、櫂を漕ぐ様なリズムの心地よい揺れ感に乗って行きます。又、～呼んでいる～ という歌詞が冒頭から3回も繰り返されます。

自分の意思で沖に向けて漕ぎだしますが、それ以上の目に見えない大きな力～呼んでいる～に吸い寄せられる様に外海にその舳先は向かいます。沖に出るとそこには四方八方からの風が渦巻いています。～風が吹く風が吹く～ 荒波に翻弄される枯葉一枚を小舟に見立てて天空を見回す感じです。～恋風魔風～。大自然に恋焦がれるその魔力と板子一枚その下は地獄と言う

大海原に翻弄される宿命にいつもさらされている危うさを歌います。股旅演歌では一天地六の丁半博打の様に、地獄極楽紙一重で、世の中にこんな楽しい冒険は無いけど、、、 “ナアぬかるんじゃないよ”！ 同じ舟に乗り込む仲間にもそう呼びかけます。

～なじむ間もない～ と～町のくらしを～ ここは違う歌詞で同じメロディを繰り返します。“退屈な日常生活を否定したんだからしょうがないよな” 軽く割り切ったそんな気持で。しかし、リズムパターンは激しく揺れます。櫂を押し又引き寄せる様に。大きなうねりです。～又捨てて～ ここがこの歌のトップの音です。一番高い波が来たよ！ それを乗り切る気魄を持って挑みましょう。～捨てて～の～て～ はたっぷりとバイブレーションを掛けて！ 大見得を切る感じです。

ここは冒頭の一句と同じテーストとトーンでいいかも！～おんな泣かせの阿呆鳥～ もう一度同じトップの音（大波？）～おんな～は先程の～又～ と同じ音程で作られています。ここでは別の表情を描きます。～又～ は男の強さを。～おんな～ はその力強さは要りません。強と弱を歌い分けます。手法はファルセット（裏声）に近い抜き声（頭部共鳴だけ）を使います。そうする事で二つの音色のパリエーションが出来て、より豊かな表情が歌に付けられます。そして～阿呆鳥～ につなぎます。ここは自嘲気味に！ 突き放して全く感情抜きで！

刻々と歌の表情が変わります。その変化を楽しんで下さい。

～北海船だよ～ 運命を一つにした仲間を確認の合図です。

“俺達やあ死ぬ時も収穫の喜びも一緒だよなあ” “馬鹿言え お前と一緒に死にたかねえよ” こんな他愛の無い掛け合いを想像して下さい。

～ハ スッチョイスッチョイ～ 民謡等では囃し手が投げかける合の手ですが、この歌の場合は自分で発します。縦横に揺れる船上から仲間達と大漁の網を引き揚げる呼吸を合わせる為の掛け声です。タイミングは～北海船だよ～、のよ～ からカウントして六拍目の裏がハアで、七拍目からがスッチョイスッチョイになります。威勢よく行きましょう。

一通り説明しましたが、“この歌は明るく、楽しく、威勢よく、” 命がけの労働をしている時に心の内の描写は殆ど要りません。歌を放り投げて下さい。 投網を打つ様に！

作詩 吉岡治 作曲 市川昭介
 呼んでいる 呼んでいる
 俺を呼んでいる 呼んでいる
 風が吹く風が吹く 恋風魔風
 なじむ間もない 町のくらしを
 また捨てて
 おんな泣かせの阿呆鳥 北海船だよ
 ハ スッチョイスッチョイ